



ほくほくフィナンシャルグループ 個人投資家向け会社説明会資料

2026年9月

本日お伝えしたいこと

- 1 ほくほくフィナンシャルグループについて
- 2 当社の強み、戦略
- 3 株主還元



ほくほくフィナンシャルグループ

Hokuhoku Financial Group



設立 : 2003年

本店 : 富山市

従業員数 : 7,162名

上場取引所 : 東京証券取引所(プライム)
札幌証券取引所

格付 : A+ (R&I)



北陸銀行

設立 : 1877年

本店 : 富山市

貸出 : 6兆1,706億円

預金 : 8兆2,601億円



北海道銀行

設立 : 1951年

本店 : 札幌市

貸出 : 4兆5,462億円

預金 : 6兆2,431億円

※2026年3月末現在

ほくほくTT証券

金融商品取引業務

ほくほく
コンサルティング

コンサルティング業務

北銀リース
北海道リース

リース業務

北陸カード
道銀カード

クレジットカード業務

北陸保証サービス

信用保証業務

北銀ソフトウェア

ソフトウェア業務

ほくほく債権回収

サービサー業務

ほくほくキャピタル

ベンチャーキャピタル業務

北陸コンピュータ
サービス

ITソリューション業務

道銀地域総合研究所

経済調査業務

1877年
北陸銀行の前身である
金沢第十二国立銀行創業



1943年
北陸銀行創立

加賀前田家の出資を受け、加賀藩祖「前田利家」
ゆかりの銀行として創業

北陸銀行

北海道銀行

1951年
北海道銀行設立



戦後復興期、新興産業の勃興と人口の急増に伴う
旺盛な資金需要に応えるべく、道内中小企業者の
強い要望により設立。

2004



ほくほくフィナンシャルグループ[®] 誕生

Hokuhoku Financial Group

経営資源をより有効に活用する経営の効率化、広域ネットワークを活用した営業力の強化、
経営基盤の安定化を目指し経営統合

2016

ほくほくTT証券設立

2028

ほくほくFG本社ビル竣工予定

ほくほくFG

創業149年
設立 75年

2011

共同利用システム「MEJAR」稼働

北陸銀行、北海道銀行が横浜銀行との
基幹系システム共同利用を開始

2025

パーパス策定

地域を超えて、輝く未来を創る。

あなたとこのまちの嬉しいが、私たちの一番。

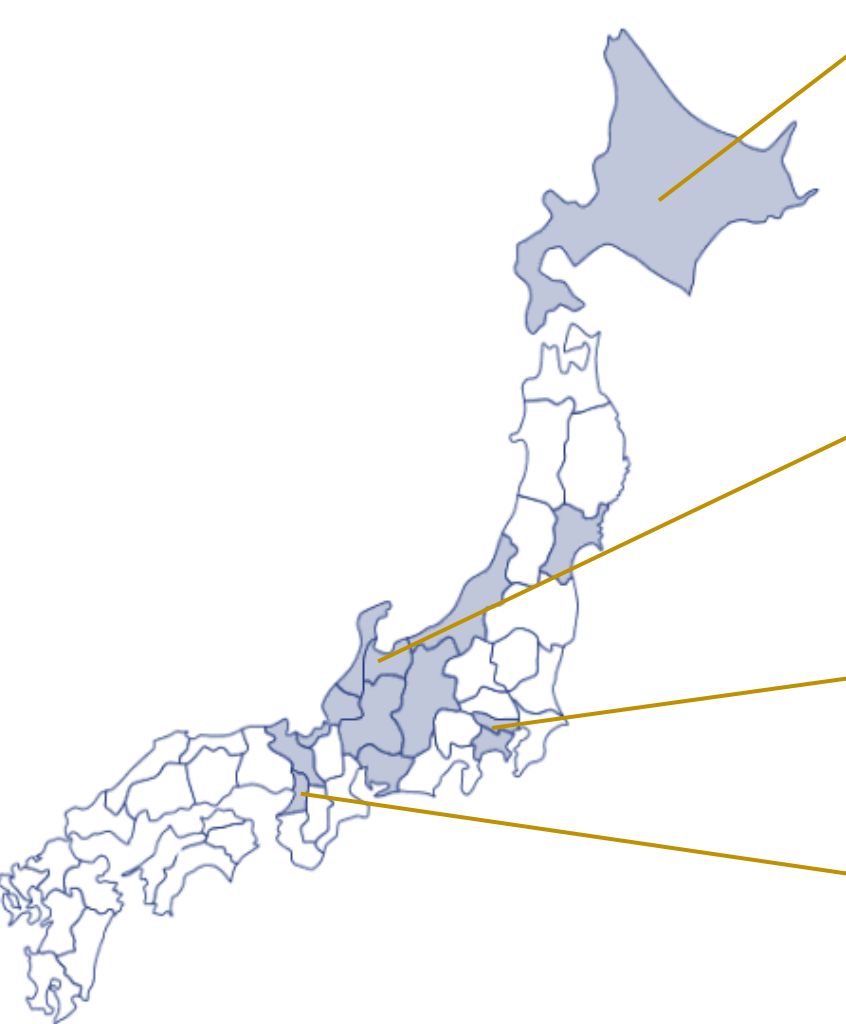
2024

ほくほく札幌ビル竣工

ほくほくコンサルティング設立



- 北海道、北陸3県、東京、大阪において、**100年以上の歴史に裏打ちされた顧客基盤**を確立
- 長い歴史の中で地域とともに発展し、**13都道府県にわたる広域店舗ネットワーク**を構築



北海道

- 1899年、北陸銀行の前身の一つである十二銀行が小樽支店を開設（1943年に合併し北陸銀行小樽支店）
- 北海道開拓の時代、ピーク時には入植者の3割が北陸出身者であり、事業を始めた移住者支援のために北海道に進出
- 1951年、北海道銀行設立

北陸3県

- 1877年、北陸銀行の前身の一つである金沢第十二国立銀行設立（北陸銀行創業）
- 1943年に十二銀行、高岡銀行、中越銀行、富山銀行の4行が合併し北陸銀行創立

東京

- 1886年、北陸銀行の前身の一つである富山第十二国立銀行が中央での情報収集や資金運用などを目的に東京支店を開設

大阪

- 1882年、北陸銀行の前身の一つである富山第百二十三国立銀行が、売薬業を中心とする活発な富山・大阪間の経済交流を背景に大阪支店を開設

北陸

～日本海側有数の工業集積地～

- ・2027年度までに北陸3県で3兆円の設備投資(※)

※当社試算、見込み

- ・上場企業を含め厚みのある産業構造

【都道府県別上場企業ランキング】

順位	上場企業数	都道府県
1	2,153社	東京都
2	441社	大阪府
3	220社	愛知県
⋮	⋮	⋮
(7)	72社	北陸3県
9	59社	北海道



富山:松川ベリ



福井:福井駅

Market Share

北陸

Market Chance

北海道

Market Size

三大都市

北海道

～SX/GXをリードする国内屈指のポテンシャル～

- ・10年間で全国において150兆円超のGX関連官民投融資(経済産業省より)、北海道では約27兆円のGX関連投融資を見込む

【従来の産業構造】

第一次産業
観光

【今後の産業構造】

第一次産業
観光
SX/GX関連



札幌:大通公園



美瑛:四季彩の丘

三大都市

～圧倒的なポテンシャル×当社の強固な顧客基盤～

- ・当社の三大都市圏拠点 15カ店 (東京・神奈川8、大阪・京都4、愛知3)
- ・長い歴史を有する強固な顧客基盤 (最古:1882年北陸銀行大阪支店)

※写真はイナガキヤスト氏撮影

地銀グループNo.5の資産規模

- 全国の地方銀行グループで**第5位の資産規模**を有しており、お客さまに安心できるお取引と多様な金融サービスを提供

預金残高

14兆8,277億円

貸出金残高

10兆6,904億円

総資産

17兆2,238億円

※2026年6月末時点。預金と貸出金は2行合算、総資産はFG連結。

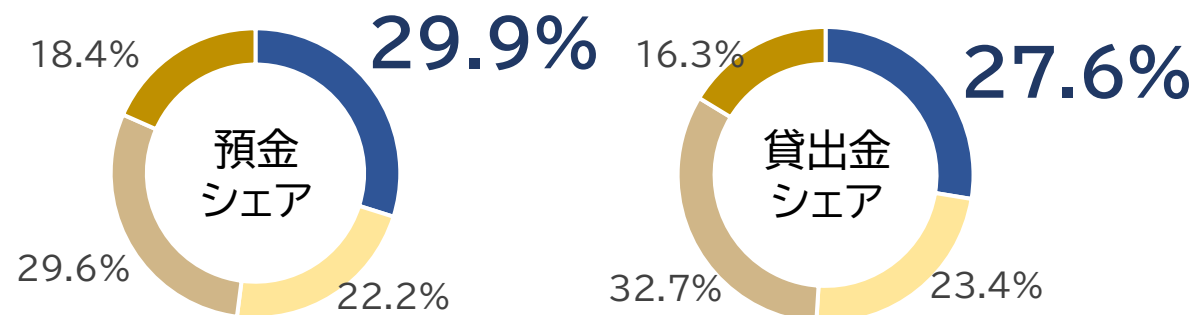
高い地域シェア

- 北陸3県と北海道で長年お客さまと共に歩み、成長してきたことで、預金・貸出とも大きくシェアを確保

※2025年9月期

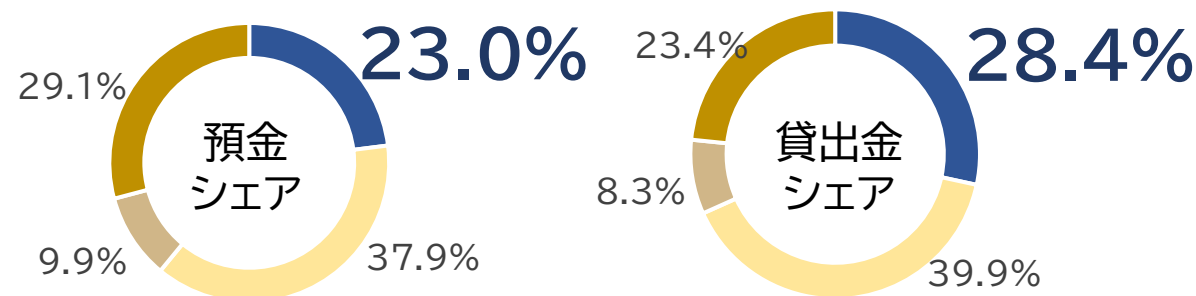
北陸3県 (富山・石川・福井)

預金・貸出金ともに第1位のシェア



北海道

預金・貸出金ともに第2位のシェア



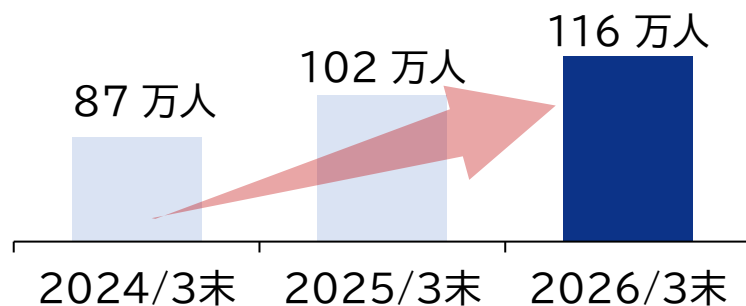
■ほくほくFG ■地区トップ競合行 ■その他の銀行 ■信用金庫

広域店舗網とデジタルを活用した金融インフラ

- 13都道府県にわたる広域ネットワークと海外拠点を活用し、情報提供や販路拡大を支援

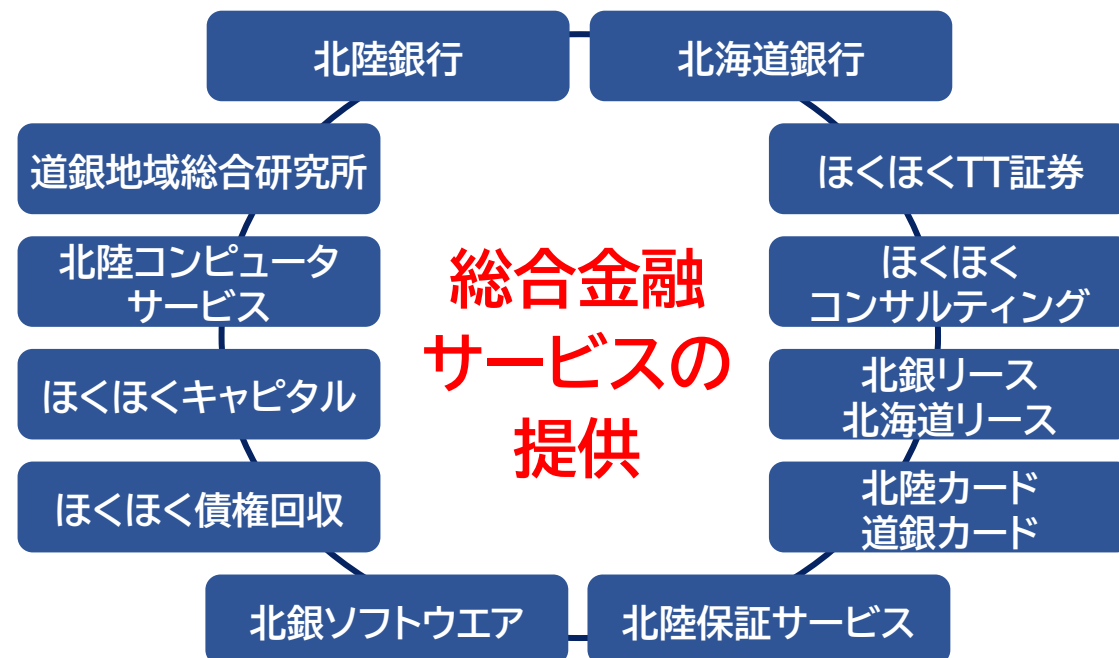


- デジタルバンキング機能を拡充、個人のお客さまのアプリとインターネットバンキングの利用者は100万人超



グループ連携による総合的なソリューション提供

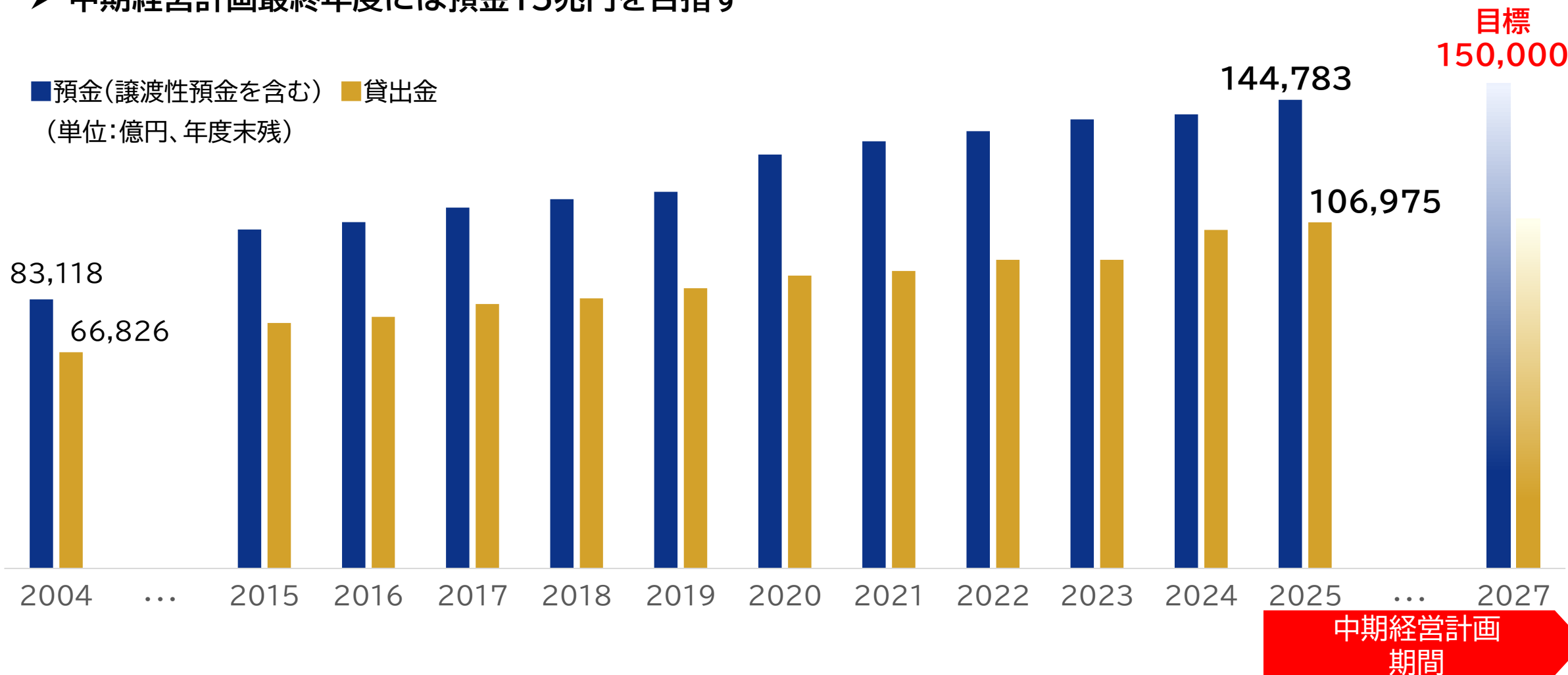
- 証券やコンサルティング、カード、リース、ソフトウェア、シンクタンクなどグループ会社が連携し、金融・非金融の枠組みを超えた総合サービスを提供



グループ連携による付加価値提供

- ・ 販路拡大支援
- ・ 資金調達手段の多様化
- ・ 運用提案の高度化
- ・ デジタル化・DX支援
- ・ ファンドによる支援
- ・ コンサルティング支援

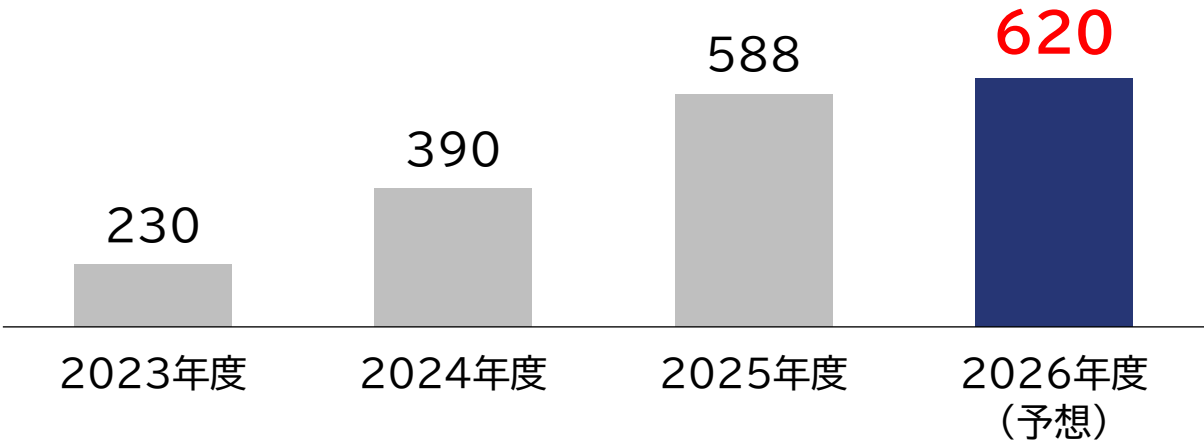
- 北陸3県、北海道、三大都市圏を中心とした安定的な顧客基盤を背景に、2004年のFG設立以来、預金、貸出金ともに安定的に増加
- 中期経営計画最終年度には預金15兆円を目指す



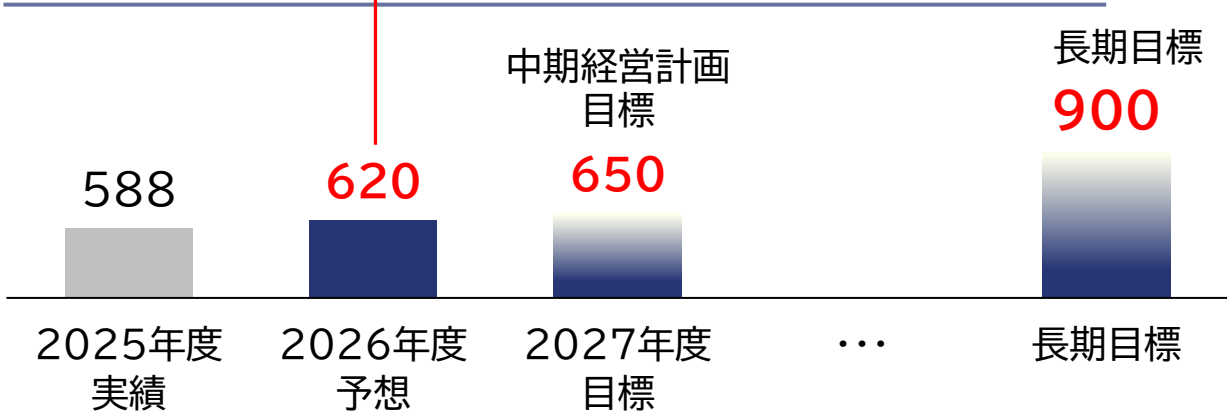
- 資金利益を中心に本業収益が堅調に推移
- 2026年度の業績予想は、2025年度のほくほくFG設立来の最高益558億円を上回る620億円を見込む

連結(億円)	中間予想	2026年度		2025年度
		1Q	前年同期比	1Q
コア業務粗利益		472	83	389
資金利益		394	82	312
役務取引等利益		67	△ 1	68
経費(△)		230	10	219
(参考)OHR		48.81%	△ 7.68%	56.49%
コア業務純益		241	72	169
有価証券関係損益		17	△ 19	36
与信関係費用(△)		△ 23	△ 30	6
経常利益	【450】	320	118	201
法人税等(△)		83	25	57
四半期純利益	【315】	235	93	142

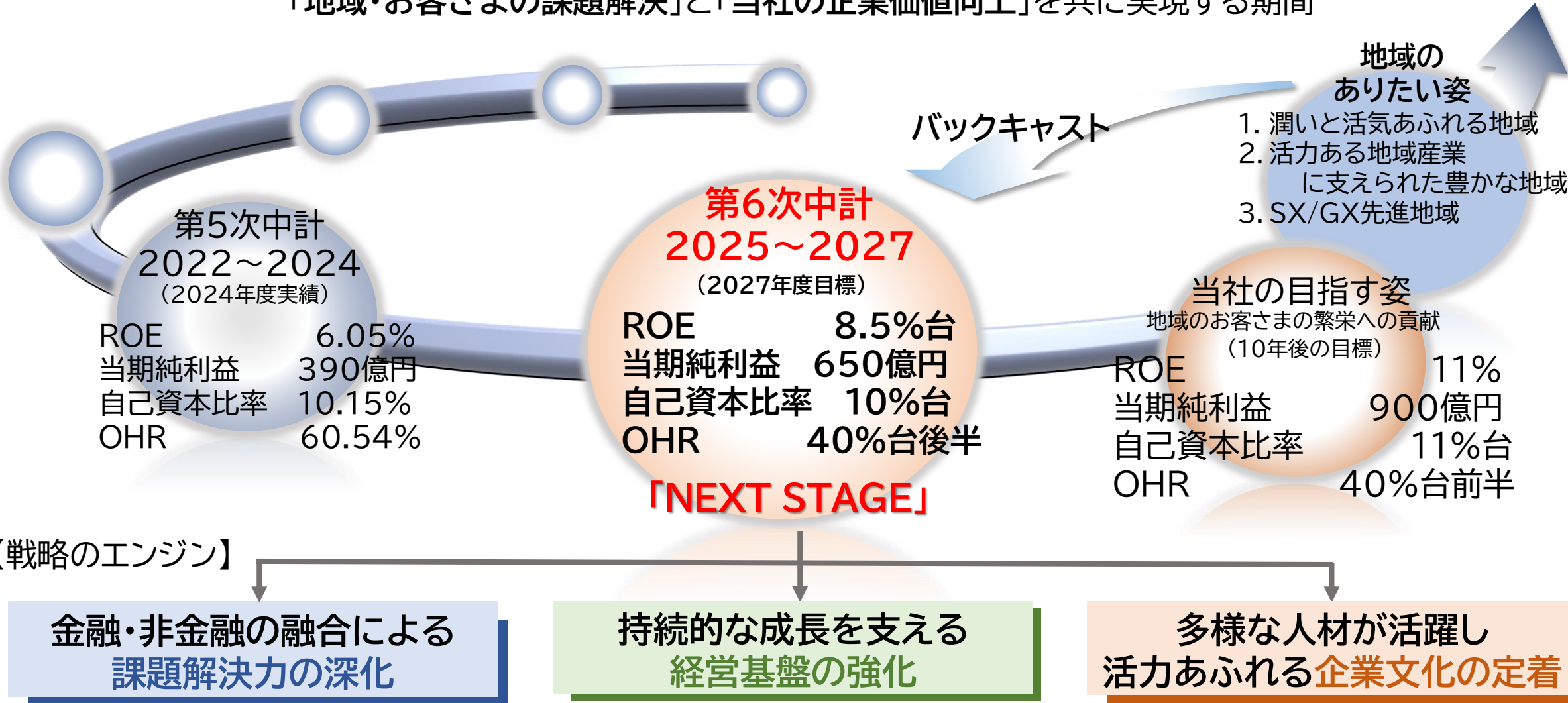
2026年度 通期業績予想 (連結当期純利益、億円)



長期目標 (連結当期純利益、億円)



地域のありたい姿や当社の目指す姿を実現するため
「資産規模を活かしたアセットの積み上げ」と「広域性の活用と専門性の深化による非金利収入の強化」により、
「地域・お客さまの課題解決」と「当社の企業価値向上」を共に実現する期間



堅調な業績推移を踏まえ経営指標目標を上方修正

第6次中期経営計画(2025～2027年度)

バックキャスト

地域のありたい姿や当社の目指す姿を実現するため

「地域・お客さまの課題解決」と「当社の企業価値向上」を共に実現する期間

地域のありたい姿

当社の目指す姿

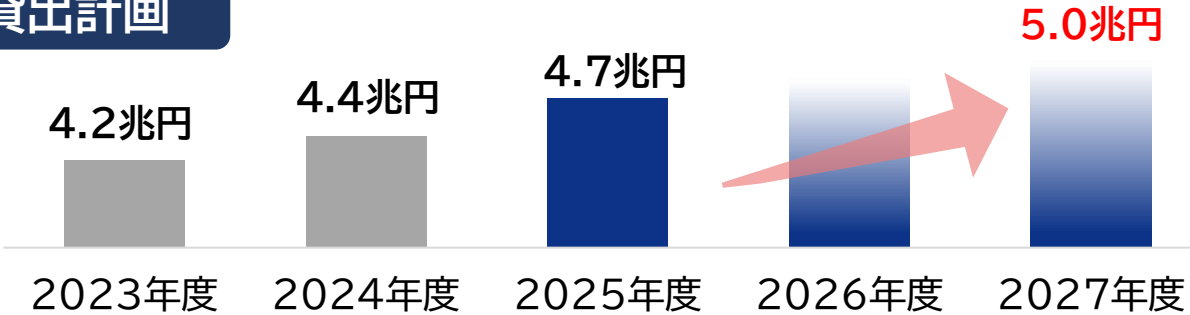
地域のお客さまの繁栄への貢献

経営指標	当初目標 (2027年度)	修正後目標 (2027年度)
ROE	8%台	8.5%
当期純利益	550億円	650億円
自己資本比率	10%台	10%台
OHR(2行合算)	50%台	40%台後半

当初長期目標	修正後長期目標
10%	11%
800億円	900億円
10～11%台	11%台
50%程度	40%台前半

地域	主戦略	■ほくほくFG ■地区トップ競合行 ■その他銀行 ■信金等 ※2025年9月末							
北陸	顧客接点強化と地域課題の解決力向上によりMarket Shareを更に高め、圧倒的存在感と安定的な収益基盤の確保に繋げる	18.4% 29.9% No.1 22.2% 29.6% 預金シェア	16.3% 27.6% No.1 23.4% 32.7% 貸出金シェア						
北海道	Market Chanceが見込まれる道央地区を中心に次世代産業等への取り組みによって、中長期的な収益機会の確保を目指す	29.1% 23.0% No.2 37.9% 9.9% 預金シェア	23.4% 28.4% No.2 39.9% 8.3% 貸出金シェア						
東京・大阪・名古屋ほか	歴史ある店舗と長年の取引で築き上げた顧客基盤を活かしながら、人員を戦略的に配置することでMarket Sizeを最大限に活用し、収益の確保を目指す	100年以上の歴史に裏打ちされた強固な顧客基盤 <table><tr><td>貸出残高</td><td>1.1兆円</td></tr><tr><td>預金残高</td><td>0.7兆円</td></tr><tr><td>貸出先数</td><td>3,000先超</td></tr></table> ※三大都市圏の営業店貸出 ※2026年3月末		貸出残高	1.1兆円	預金残高	0.7兆円	貸出先数	3,000先超
貸出残高	1.1兆円								
預金残高	0.7兆円								
貸出先数	3,000先超								

事業性貸出計画



新たな資金需要の創出につなげ、
シェア拡大・地域ポテンシャル拡大の好循環へ

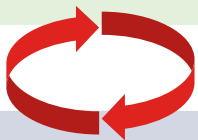
半導体関連産業に対する取組意義

当社グループの広域ネットワークを活かし、半導体関連企業への「成長支援」と「参入支援」を軸とした活動を進め、将来の融資や収益獲得を目指す



地域 ～ 経済全体の活性化

- ◆ 次世代半導体の製造・輸出
→ 地域の生産額が増加
- ◆ 賃金上昇、定住・交流人口増加
→ 個人消費の拡大



当社グループ ～ 取引拡大

- ◆ 設備・運転資金需要への対応
- ◆ 不動産関連融資需要への対応
- ◆ 各種補助金等のコンサル

半導体関連産業への支援状況

(2023年2月末～2026年3月末までの累計)

件/ 億円	サプライチェーン		まちづくり※		計	
	件数	融資額	件数	融資額	件数	融資額
実行	255	727	843	1,036	1,098	1,763

※まちづくり: 半導体関連産業に付随して発生する不動産・アパートへの融資

関連融資に加え
Rapidus社に対し50億円の出資を実施
(2026年2月)

ふくおかFGと連携協定を締結(2026年6月17日)

地域の強みをつなぎ、日本全体の競争力へ



リアルとWEB両面での顧客利便性のさらなる追求

リアル

地銀トップクラスの広域店舗網とATM数



WEB

非対面取引の利便性向上(アプリ/法人ポータル機能拡充)

13都道府県/265店舗の店舗網

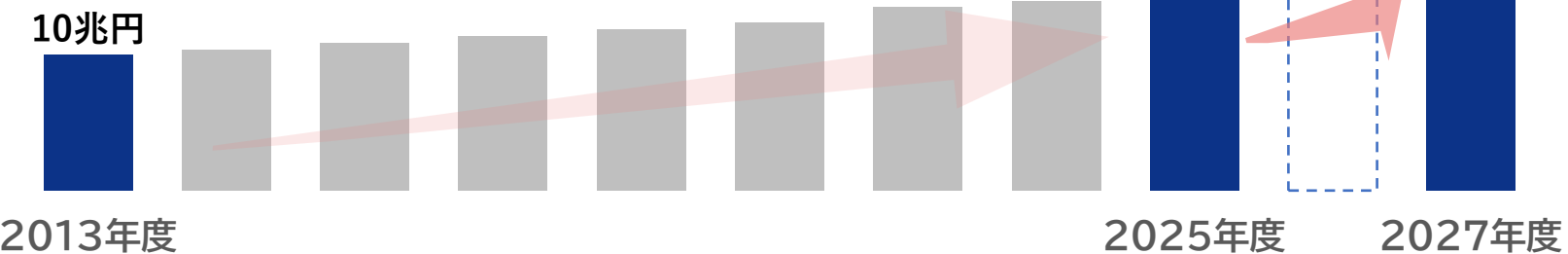
※2026年3月末、実店舗数

- ・受付業務の効率化(店頭DX)
- ・マーケットに応じた店舗戦略(インストア、軽量化店舗等)

地銀トップクラスのATM拠点

(2026/3時点)	店舗内	店舗外
北陸3県	113	134
北海道	133	898
その他	16	1
合計	262	1,033

総預金残高推移(平残)



個人向け

アプリ機能拡充

- ・金融機能の拡充
- ・非金融機能の拡充
- ・セキュリティの向上

法人向け

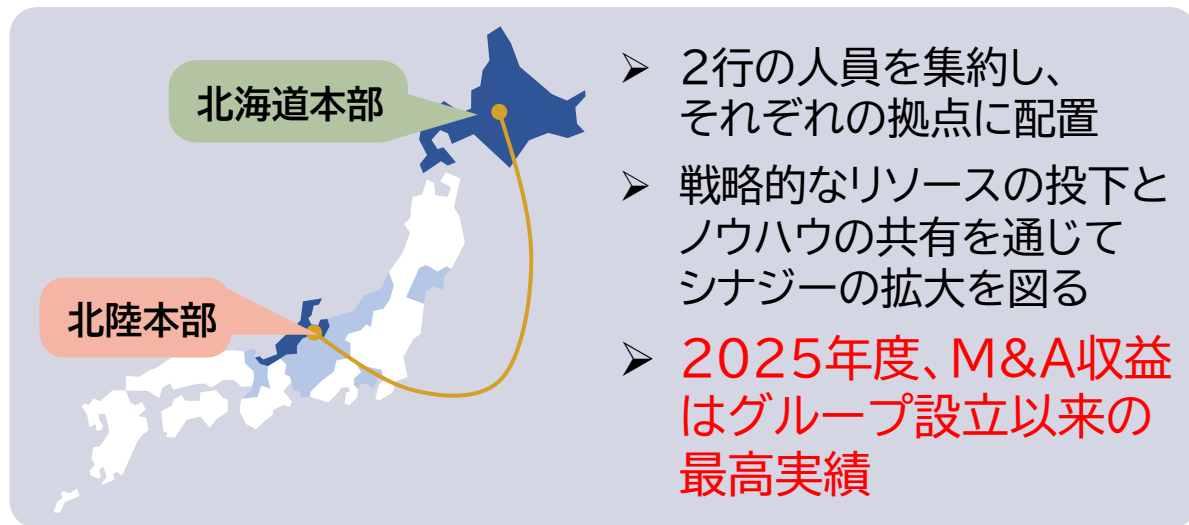
法人ポータル機能拡充

- ・決済機能の利便性向上
- ・各種サービスのデジタル化

三大都市圏を含む広域店舗網と地銀トップクラスのATM台数を活かすとともに、WEBチャネルの充実化を図り、顧客基盤の拡大・預金の増加に取り組むことでトップラインの向上に繋げる

ほくほくコンサルティング

- 2024年5月、100%子会社として新設
- 法人のお客さま向けにM&A、事業承継、経営コンサルティング等のサービスを提供



<M&A・事業承継・その他コンサルティング手数料(百万円)>



海外ビジネスの強化

- 海外ビジネスの強化を図るべく、駐在員事務所を現地法人化
- 2026年10月設立、2027年1月開業予定



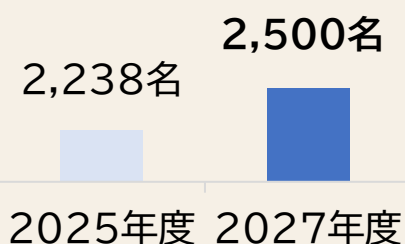
具体的支援

- 海外進出支援や販路拡大、M&A等のコンサルティング業務
- 海外シンジケートローン案件の組成支援

人材育成

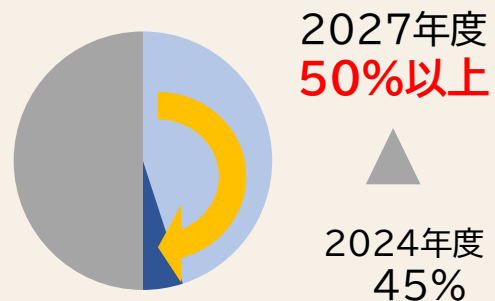
- コンサルティング、SX、DXの各分野で一定の資格要件と業務経験を満たす人材を「ソリューション人材(地域・お客さまの課題解決を実践できる人材)」と定義
- 人材育成を図り、戦略分野の人員を増強することで課題解決力の深化や価値創造につなげる

ソリューション人材増加



戦略分野の人員割合増強

人材
再配置



- 経験を増やすジョブローテーションの実施と挑戦機会の活用
- 実践のフォローを通じて成長実感に繋げる
- 継続的な資格取得への意識付けによるスキルアップ

生成AIによる生産性の向上

- 生成AIの活用を拡大。効率化を図り、創出した時間をお客さまとの対話に充て、顧客価値の向上を図る。

1



導入・定着

生成AI基盤を導入

2



活用

- ・ 面談録音・要約作成 AIの導入
 - ・ 業務特化型AIアプリの開発
- 例: ビジネスマッチング支援AI
融資稟議書作成AI

3



さらなる高度化

- ・ 渉外・融資・本部など幅広い業務への拡大
- ・ 生産性の向上と提案力の強化を両立、顧客価値向上につなげる

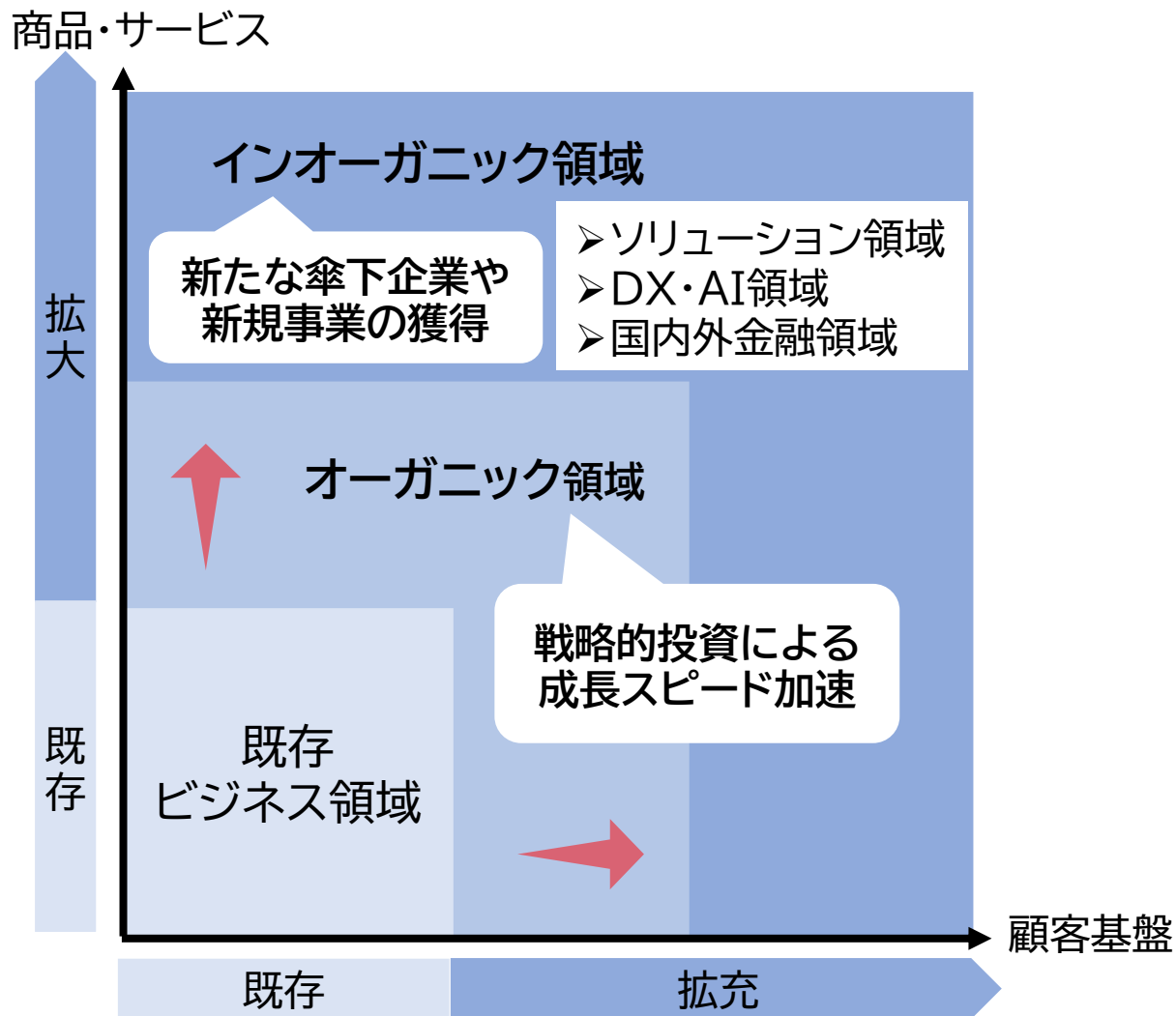


目指す姿

AIと人が協働し、職員がお客さまに向き合う時間を創出。生産性と顧客価値をともに高め、持続的な成長を実現する。

更なる企業価値向上に向けた投資機会を追求していく

戦略のイメージ



当社グループの取り組み

2024年10月

北海道リース(株)の持分法適用会社化

<国内金融領域の拡大>

- ファイナンスの多様化による高付加価値の提供
- スtockビジネスの強化

2026年4月

北陸コンピュータ・サービス(株)の持分法適用会社化

<ソリューション領域・AI領域の拡大>

- 北陸エリアにおける、地元企業のDX推進を実現
- 当社グループの業務効率化・高度化の支援

2026年5月公表

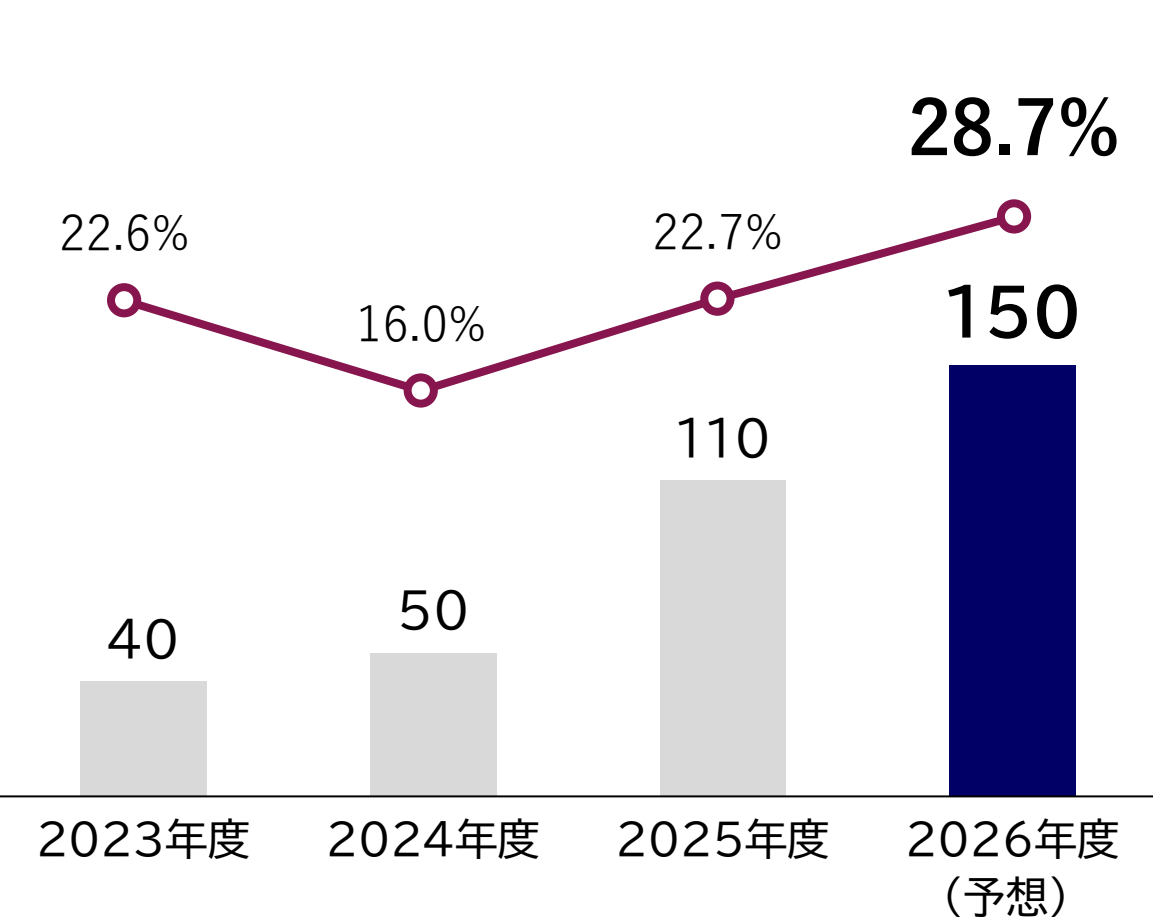
(株)北陸カードと道銀カード(株)のカード事業統合

<グループシナジーの追求>

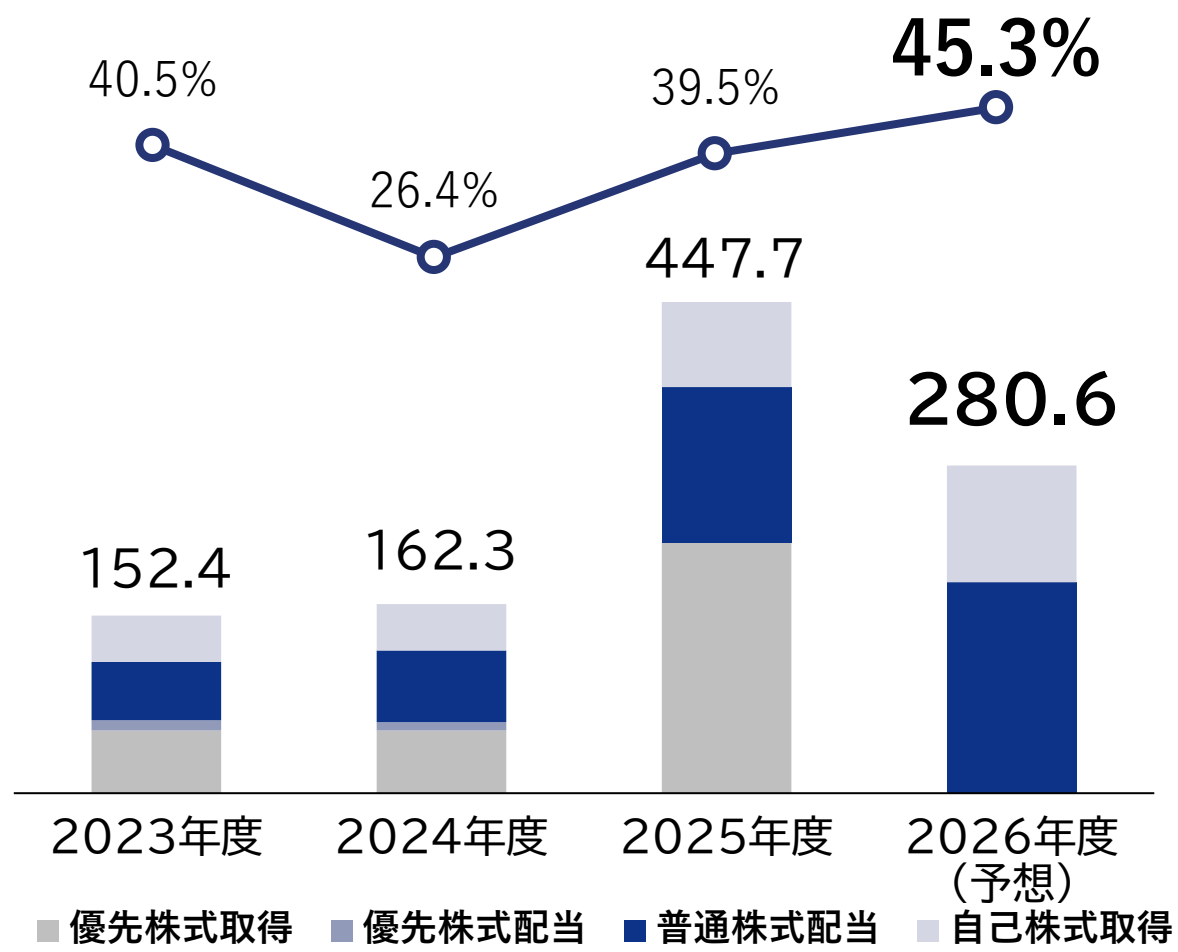
- 経営資源(人材・システム等)の最適配分による効率化
- 営業力強化によるサービスの品質向上

株主還元方針 2027年度までに普通株式総還元性向を40%を目途に引き上げる

配当性向(%）、1株当たり配当金(円)



普通株式総還元性向(%）、株主還元額(億円)



- 投資単位当たりの金額を引き下げ、株式の流動性の向上と投資家層の更なる拡大を目的に、株式分割を実施
- 当社株式への投資の魅力を高め、より多くの投資家の皆さまに保有していただくことを目的に、株主優待制度を拡充

株式分割

分割比率

1 対 10

基準日

2026年9月30日

効力発生日

2026年10月1日

(例)
分割前に当社株式を100株保有している場合(株価8,000円)

分割前

100株 80万円

▶

分割後

1,000株 80万円

分割前に保有していた100株が、10倍の1,000株になります

株主優待制度の拡充

優待内容:カタログギフト

北海道、富山県、石川県、福井県の特産品等から、
お好みの優待品をお選びいただけます。



	3月末における保有株式数	カタログギフト
変更前	500株以上 2,000株未満	5,000円相当
	2,000株以上	10,000円相当
変更後	2,500株以上 10,000株未満 (分割前株式数換算:250株以上 1,000株未満)	5,000円相当
	10,000株以上 (分割前株式数換算:1,000株以上)	10,000円相当

※2027年3月31日を基準日とした株主名簿に記載または記録された株主さまに対する株主優待より、変更後の制度を適用いたします。
※継続して当社株式を1年以上保有している株主さまが対象です。

- 東京証券取引所が、プライム市場・スタンダード市場の上場企業に対して「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」を要請した2023年3月末の株価を1として指数化
- ほくほくFGの株価推移は**時価総額上位の地銀20行平均やTOPIX(銀行業指数)をアウトパフォーム**



※時価総額上位地銀20行: 横浜FG、千葉銀行、しずおかFG、めぶきFG、ふくおかFG、京都FG、八十二長野銀行、いよぎんHD、群馬銀行、当社、七十七銀行、山口FG、九州FG、第四北越FG、ひろぎんHD、西日本FH、滋賀銀行、ちゅうぎんFG、百五銀行、十六FG

※各データはBloombergより参照し当社作成(グラフ期間: 2023年3月31日～2026年9月11日)

当社株価の上昇率

2023年3月末対比

上昇率 **+792%**

(地銀上位20行平均上昇率 +349%)
(TOPIX(銀行業指数)上昇率 +307%)
(TOPIX(東証株価指数)上昇率 +101%)

※2026年9月11日時点

PBR

PBR **1.34倍**

※2026年9月11日時点

PBR **0.20倍**

※2023年3月31日時点

スポーツ・復興支援を通じて地域をとともに盛り上げています

ユニフォームスポンサー

■サッカー：カターレ富山(J2)



©カターレ富山



©カターレ富山

■バスケットボール：富山グラウジーズ(B1)



©富山グラウジーズ



■フットサル：エスポラーダ北海道 (2026年度よりF1)



©ESPOLADAHOKKAIDO

カーリング

■北海道銀行リラズ



世界チームランキング第9位 (9/9時点)

＜昨シーズンの主な戦績＞
グランドスラム Canadian Open ベスト4
日本カーリング選手権大会横浜2026 準優勝

【トピックス】
「どうぎんカーリングクラシック2026」初優勝

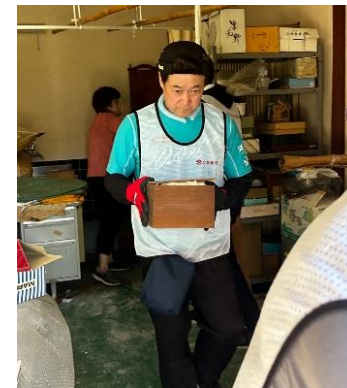


8月からスタートの
北海道カーリング
ツアーの3大会は、
優勝2回、準優勝1
回と好調な滑り出
しをしました。

能登震災復興支援

■のべ201名のFG職員が参加

被災した
民家の片づけ
(穴水町)



家財搬出作業
(氷見市)



瓦礫の搬出・分別
(輪島市)



本日お伝えしたいこと

1

ほくほくフィナンシャルグループについて

- 100年以上の歴史に裏打ちされた顧客基盤
- 13都道府県にわたる広域店舗ネットワーク

2

当社の強み、戦略

- 広域店舗ネットワークを活かした情報提供や支援
- 地銀グループ第5位の資産規模
- 外部環境を追い風に、中期経営計画の戦略に取り組んでいく

3

株主還元

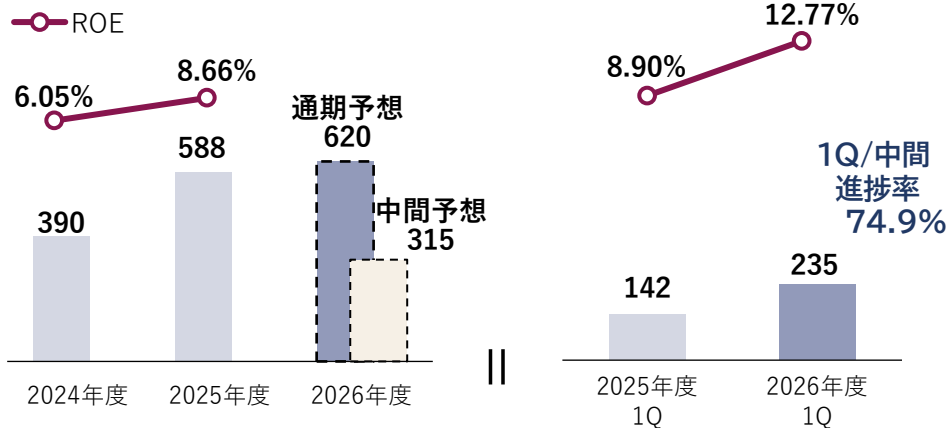
- 2027年度までに普通株式総還元性向を40%を目途に強化
- 2025年4月に優先株式を全部取得。普通株式の還元を強化していく

参考資料

連結コア業務純益は資金利益が堅調だったことを主因に前年同期比72億円増加。連結四半期純利益は与信関係費用の減少等もあり、前年同期比93億円増加の235億円となり、業績予想に対し好調に推移。

連結（億円）	中間予想	2026年度		2025年度
		1Q	前年同期比	1Q
コア業務粗利益		472	83	389
資金利益		394	82	312
役務取引等利益		67	△ 1	68
経費（△）		230	10	219
（参考）OHR		48.81%	△ 7.68%	56.49%
コア業務純益		241	72	169
有価証券関係損益		17	△ 19	36
与信関係費用（△）		△ 23	△ 30	6
経常利益	【450】	320	118	201
法人税等（△）		83	25	57
四半期純利益	【315】	235	93	142

<連結当期(四半期)純利益>（億円）



2行合算（億円）	2026年度		2025年度
	1Q	前年同期比	1Q
コア業務粗利益	448	82	365
資金利益	400	84	316
うち貸出金利息	357	71	285
うち有価証券利息	110	31	79
役務取引等利益	45	△ 4	49
その他（国債等債券損益除く）	2	2	△ 0
経費（△）	213	9	203
（参考）OHR	47.62%	△ 8.05%	55.67%
コア業務純益	234	72	162
国債等債券損益	△ 2	1	△ 3
実質業務純益	231	73	158
与信関係費用（△）	△ 24	△ 28	4
株式等損益	19	△ 21	40
経常利益	283	86	196
特別損益	△ 0	0	△ 0
法人税等（△）	80	24	55
四半期純利益	203	63	140

北陸銀行

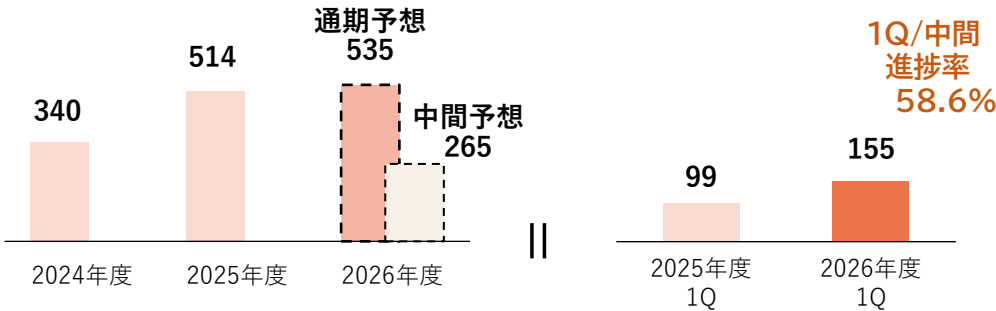
			(億円)
	2026年度		2025年度 1Q
	1Q	前年同期比	
コア業務粗利益	269	59	209
資金利益	238	64	173
うち貸出金利息	197	46	151
うち有価証券利息	91	31	60
役務取引等利益	29	△ 3	32
その他（国債等債券損益除く）	1	△ 1	3
経費（△）	114	4	110
（参考）OHR	42.39%	△10.00%	52.39%
コア業務純益	155	55	99
国債等債券損益	△ 1	2	△ 4
実質業務純益	153	57	95
与信関係費用（△）	△ 13	△ 19	6
株式等損益	13	△ 25	39
経常利益	186	55	131
特別損益	△ 0	0	△ 0
法人税等（△）	51	12	38
四半期純利益	135	42	93
（参考）ROE	11.69%	2.48%	9.21%

業績ハイライト

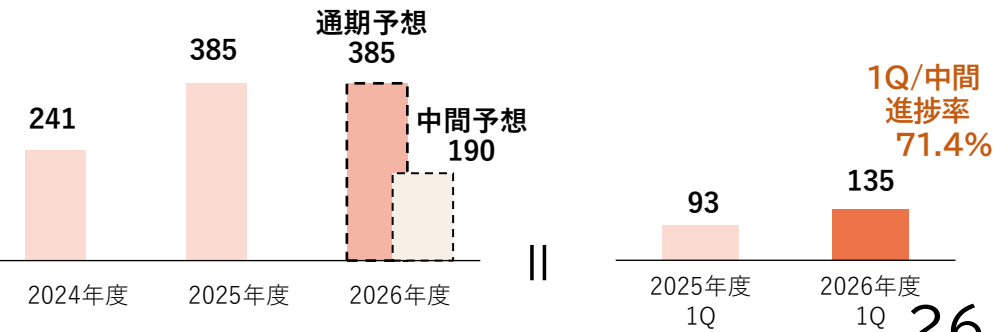
コア業務純益 155億円(前年同期比+55億円、同+55.3%)
貸出金利息や有価証券利息など資金利益が改善したことを主因に前
年同期比55億円増加。

四半期純利益 135億円(前年同期比+42億円、同+45.7%)
コア業務純益の増加に加え、与信関係費用の減少等により、前年同期
比42億円増加。

<コア業務純益> (億円)



<当期(四半期)純利益>(億円)



北海道銀行

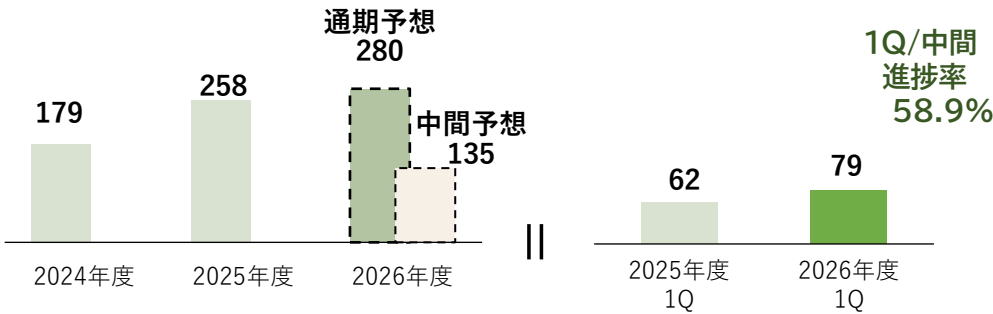
	(億円)	
	2026年度 1Q	2025年度 1Q
	前年同期比	
コア業務粗利益	178	22
資金利益	162	19
うち貸出金利息	159	25
うち有価証券利息	19	△ 0
役務取引等利益	16	△ 0
その他（国債等債券損益除く）	0	3
経費（△）	99	5
（参考）OHR	55.50%	△4.58%
コア業務純益	79	17
国債等債券損益	△ 1	△ 1
実質業務純益	78	15
与信関係費用（△）	△ 10	△ 8
株式等損益	5	3
経常利益	96	31
特別損益	△ 0	0
法人税等（△）	28	11
四半期純利益	67	20
（参考）ROE	12.06%	2.78%
		9.28%

業績ハイライト

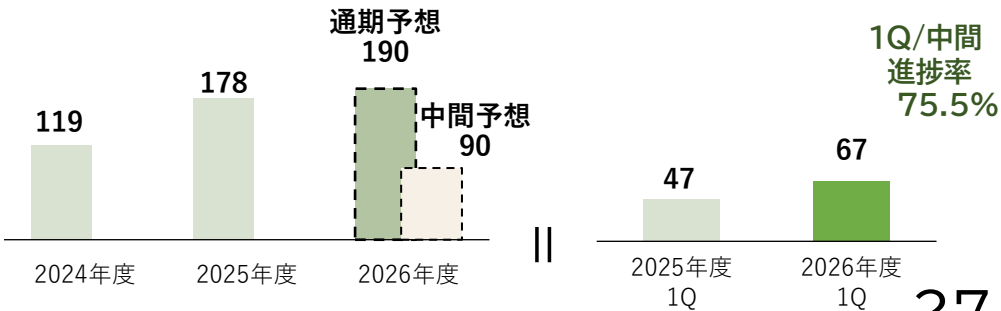
コア業務純益 79億円(前年同期比+17億円、同+27.9%)
貸出金利息など資金利益が改善したことを主因に前年同期比17億円増加。

四半期純利益 67億円(前年同期比+20億円、同+43.1%)
コア業務純益の増加に加え、株式等損益の増加や与信関係費用の減少により、前年同期比20億円増加。

<コア業務純益> (億円)



<当期(四半期)純利益> (億円)

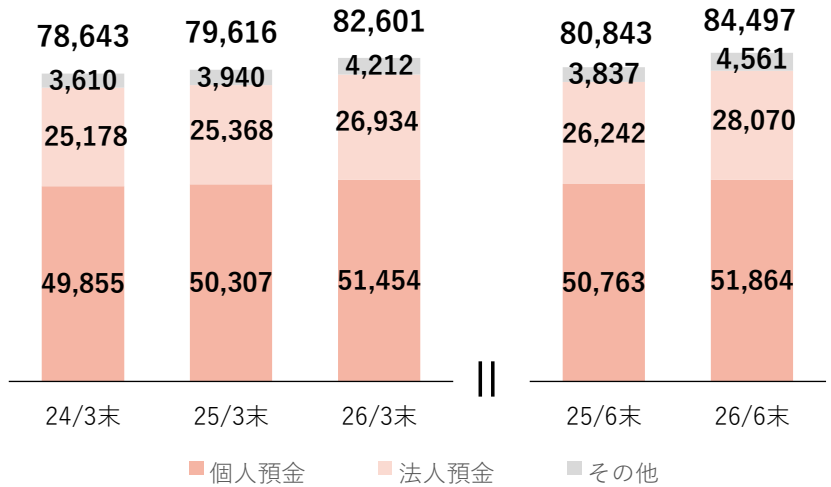
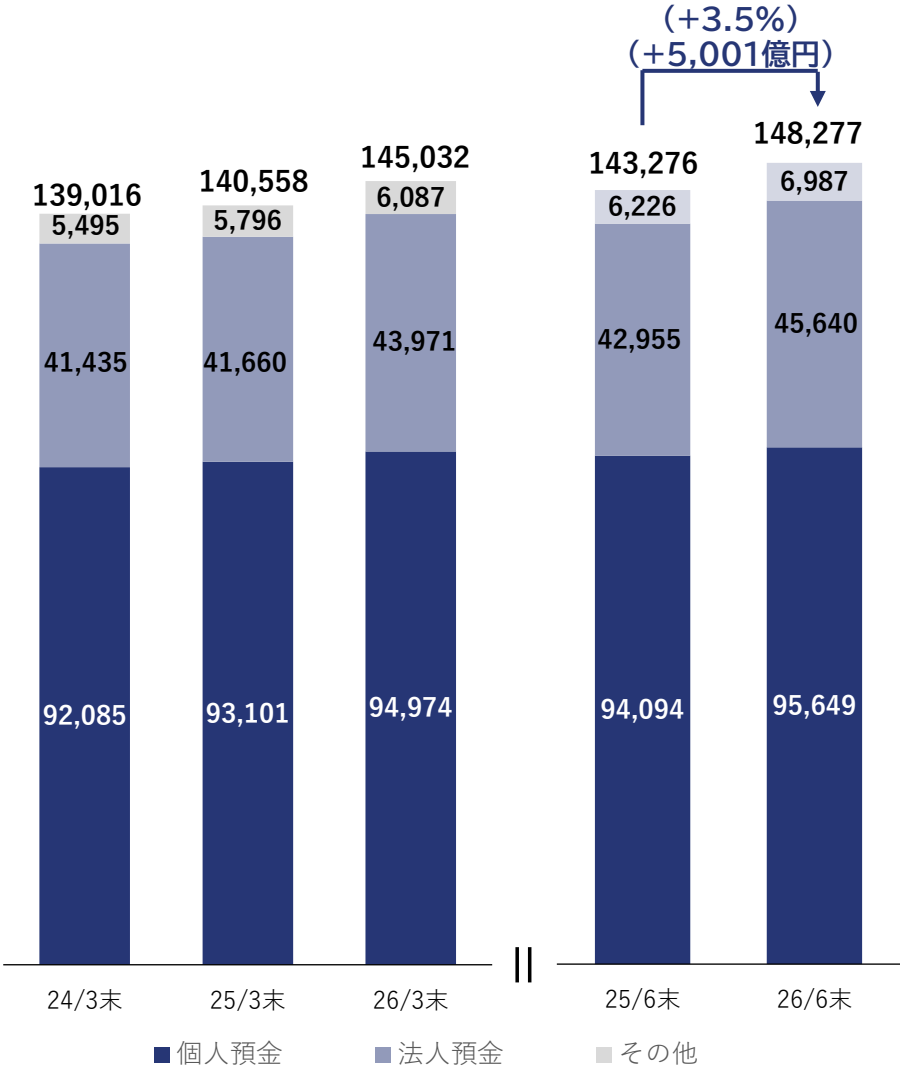


個人預金・法人預金ともに堅調に推移し、前年比5,001億円増加(同+3.5%)の14兆8,277億円。

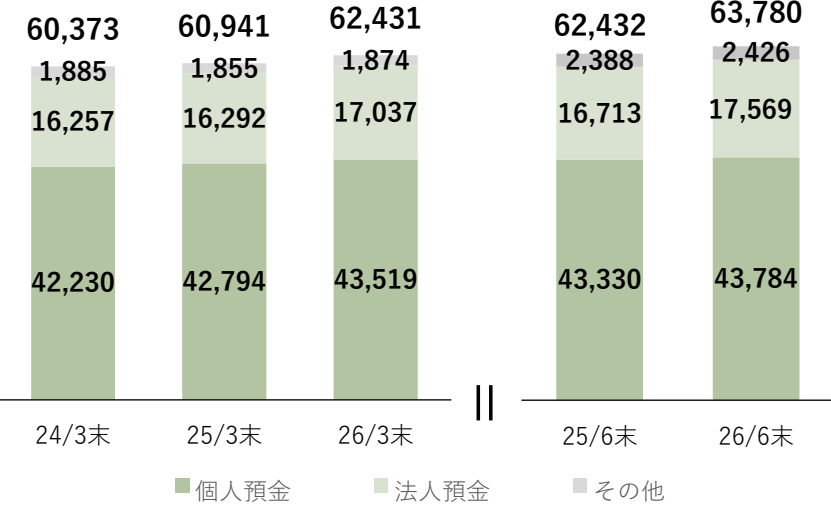
預金・NCD残高(億円)

【 2行合算 】

【 北陸銀行 】



【 北海道銀行 】

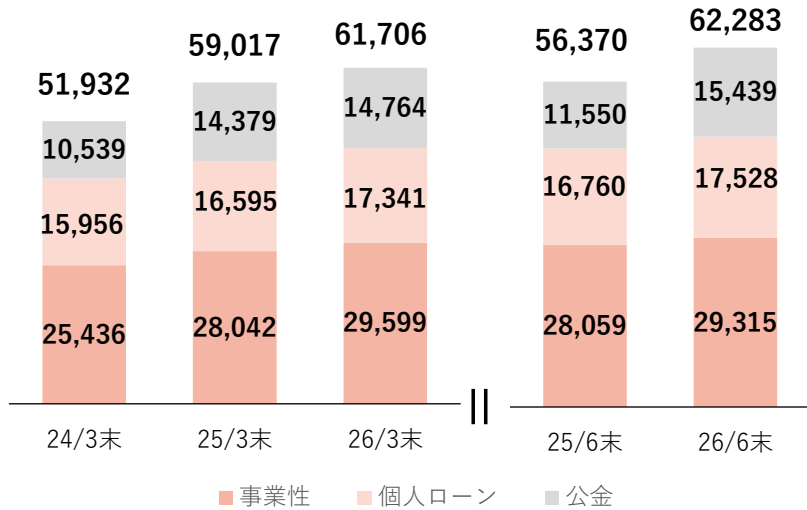
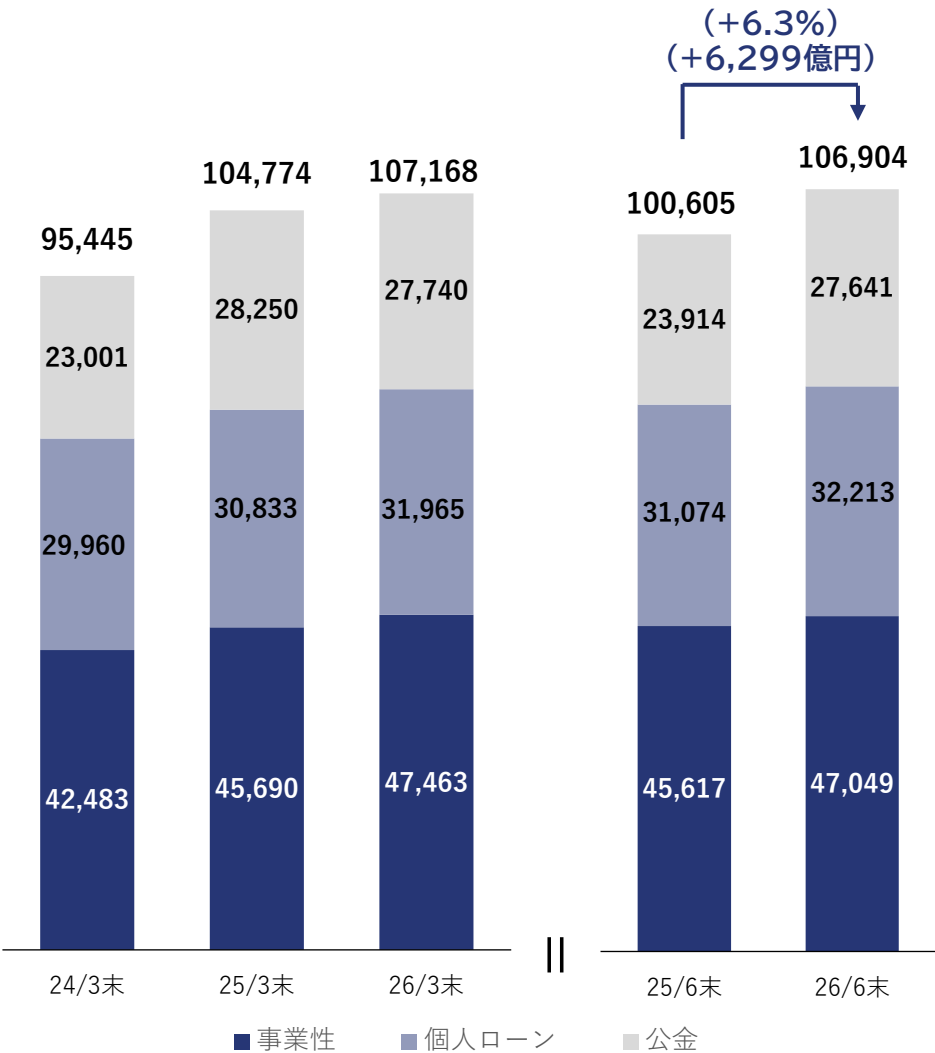


事業性・個人ローンともに堅調に推移し、前年比6,299億円増加(同+6.3%)の10兆6,904億円。

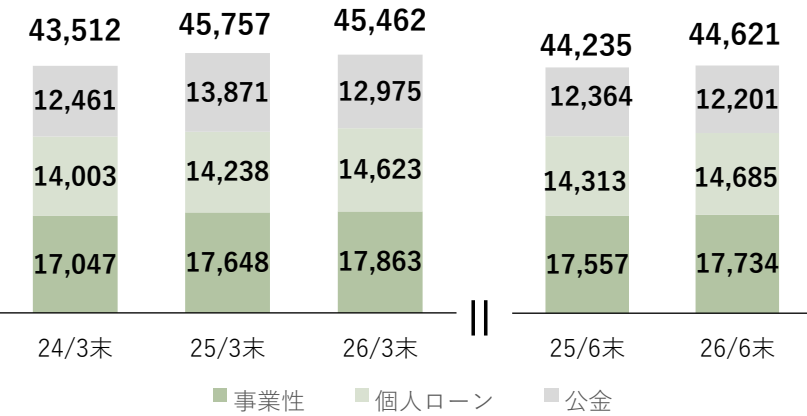
貸出金残高(億円)

【 2行合算 】

【 北陸銀行 】



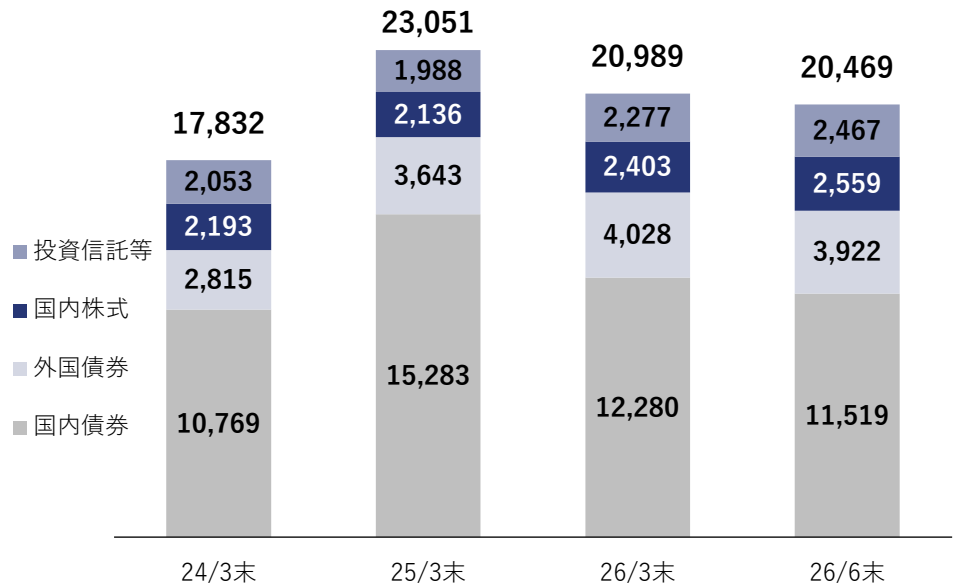
【 北海道銀行 】



金利リスクの抑制と安定的な収益確保の両立を目指したオペレーションを継続。
有価証券評価損益は前期末比197億円増加し1,342億円。

有価証券残高(億円)

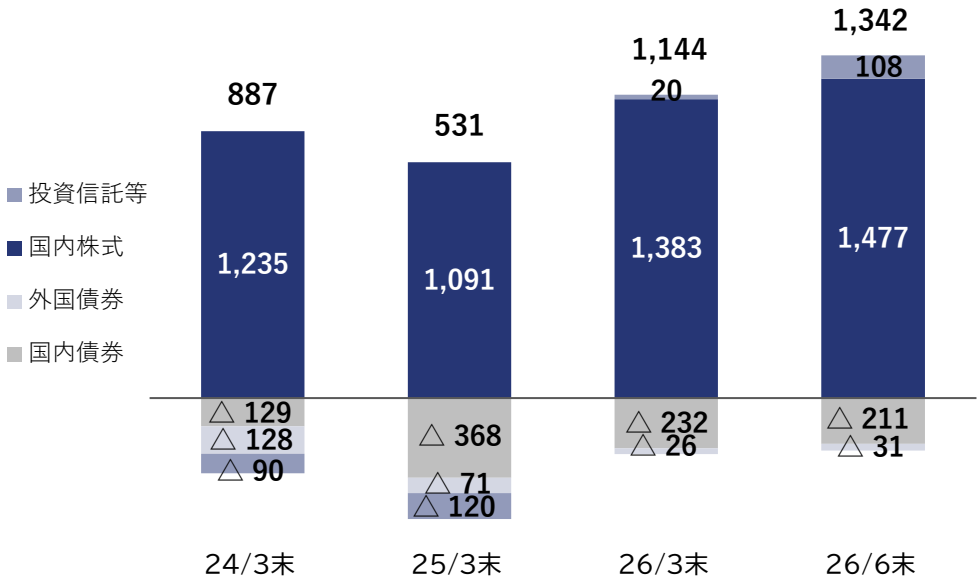
【2行合算】



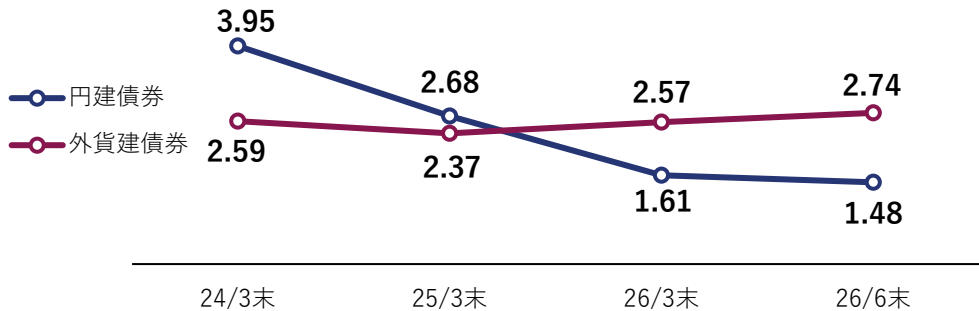
有価証券評価損益(億円)

【2行合算】

<繰延ヘッジ損益考慮後>



<債券デュレーション(年・繰延ヘッジ考慮後)>



有価証券関係損益(億円)

【2行合算】

	2026年度 1Q	前年同期比	2025年度 1Q
国債等債券損益	△ 2	1	△ 3
売却益・償還益	0	△ 0	0
売却損・償還損・償却(△)	2	△ 1	4
株式等損益	19	△ 21	40
売却益	20	△ 22	43
売却損・償却(△)	1	△ 1	3

本件に係るお問い合わせ先

株式会社 ほくほくフィナンシャルグループ

経営企画部 IR担当

TEL : 076-423-7331

E-MAIL : info@hokuhoku-fg.co.jp

HP : <https://www.hokuhoku-fg.co.jp/>

- 事前に株式会社ほくほくフィナンシャルグループの許可を書面で得ることなく本資料を転写・複製し、又は第三者に配布することを禁止いたします。
- 本資料は、情報の提供のみを目的として作成されたものであり、特定の証券の売買を勧誘するものではありません。
- 本資料に記載された事項の全部または一部は、予告なく修正・変更されることがあります。
- 本資料には、将来の業績に関する記述が含まれておりますが、これらの記述は将来の業績を 保証するものではなく、経営環境の変化等により、実際の数値と異なる可能性があります。



ほくほくフィナンシャルグループ

Hokuhoku Financial Group

地域を超えて、輝く未来を創る。

あなたとこのまちの嬉しいが、私たちの一番。